

宗 像

8月祭事暦
毎月1・15日 つきなみ 月次祭

午前10時
高宮祭
第二宮・第三宮祭
引き続き
宗像護国神社
月命日祭(1日)
巡 拜(15日)
午前11時～
総社祭
浦安舞奉奏(1日)
豊栄舞奉奏(15日)

7日 中津宮七夕祭
午後7時～
於＝筑前大島 中津宮

15日 宗像護国神社 千灯祭
午後7時～
於＝宗像護国神社

第三十回宗像大社小倉百人一首かるた大会

六月十一日・二十五日の両日、第三十回宗像大社小倉百人一首かるた大会(主催〓宗像大社、社団法人全日本かるた協会 主管〓九州かるた協会 後援〓宗像市教育委員会)が、当大社清明殿・斎館で開催された。



大会一日目の十一日は、D級、初心者・シニアの部が、小・中・高校生を中心に約一〇〇名参加の下、各級とも静寂の中、夕刻まで熱戦が繰り広げられた。
大会二日目の二十五日は、A・B・C級(有段者)の部が、九州は勿論、遠く関西・関東からも実力者が集い、総勢一二五名参加の下、レベルの高い息詰る熱戦が繰り広げられ、特に高段者が参加するA級は実力が伯仲し、激しい攻防戦が展開された。
この日、A級の部で、過去二年間公式戦負けなしでクイーン(女子日本一)の称号を持つ楠木早紀(大分県かるた協会所属)さんが敗北するという大波乱がおきた。破ったのは、内川信幸(九州かるた協会会長)氏で、決勝戦まで駒を進める

出光

い で み つ し ん
出 光 人

詳しくは「出光人」で検索を。

誰も話さないで、私がお話します。知って驚く、出光人の物語。



ほんと安心、もっと活力、きっと満足。出光の約束

各級の成績は下記の通り。

- A 級 (42名)**
- 優勝 益満 亮子 (九州かるた協会)
- 準優勝 内川 信幸 (九州かるた協会)
- 三位 木原 彰彦 (東京大学かるた会)
- 三位 楠木 早紀 (大分県かるた協会)
- B 級 (34名)**
- 優勝 高橋 純子 (横浜隼会)
- 準優勝 竹田 美奈 (熊本県かるた協会)
- 三位 榮 琴美 (熊本県かるた協会)
- 三位 清水 さゆり (大分県かるた協会)
- C 級 (39名)**
- 優勝 西 夏海 (九州かるた協会)
- 準優勝 長尾 嘉昭 (九州かるた協会)
- D 級 (40名)**
- 優勝 長尾 嘉昭 (九州大学)
- 優勝 菅井 奈津子 (筑紫女学園高校)
- 準優勝 佐藤 かおる (筑紫女学園高校)
- 準優勝 田中 友理菜 (福岡中央高校)
- 初心者の部**
- 中学生以上**
- 優勝 藤本 優 (長崎南高校)
- 準優勝 小林 竜也 (鹿本高校)
- 小学生**
- 優勝 黒田 海 (大牟田かるた会)
- 準優勝 小田 早紀子 (益城中央小学校)
- シニア級 (12名)**
- 優勝 野村 正孝 (山口県かるた協会)
- 準優勝 藤木 美千子 (新田原かるた会)



が敗れ、益満亮子(九州かるた協会)さんが優勝を飾った。

本年度も、両日で大会関係者・選手総勢二百数十名が協力し、盛会裏の内に大会は終了した。表彰式が終わると、一同互いの健闘を称え合い再会を誓い大社を後にした。



午前九時、二八〇〇平方メートルの神田前に祭壇を設置、神饌を供え、大社職員が参列し、五穀豊穡と作業の安全を祈念した。

祭典後、真夏のような日差しの中、職員で田植え作業が行われ、神田一面に「ヒノヒカリ」の苗が植えられた。

この神田で収穫された米は、三宮で行われている日々の御日供祭をはじめ、各祭典で年間を通してお供えされる。

七月中旬から長雨が続いていますが、担当者の話では例年通りに生育が進んでいるとのこと。秋の収穫が期待できそうです。

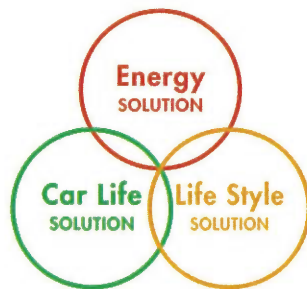


神田で御田植え祭

梅雨の晴れ間の六月十九日、宗像市深田の当大社神田で御田植え祭が斎行された。



三つのソリューションで、あなたのもっと身近へ。



株式会社 **新出光**

〒812-0036 福岡市博多区上呉服町1番10号 TEL(092)291-4134

第15回 宗像大社氏子会研修旅行開催

〜世界遺産 熊野三宮を訪ねて〜

六月二十日〜二十三日の三泊四日で、第十五回宗像大社氏子会研修旅行が開催された。この氏子会研修旅行は、毎年当社の氏子の方々の研修・親睦を図ることを目的として行われており本年で十五回目を迎えた。

今年の世界遺産としても有名な高野山熊野三宮巡拝の旅となり、二十日夕刻参加者一同二十九名は宗像大社に集合しバスにてフェリー出発港である新門司港へとむかった。

船中泊後、翌二十一日午前五時三十分には泉大津港に到着後、バスにて玉川峠を通り、高野山総本山金剛峰寺・大塔・奥の院などを参詣した。

この二十一日は偶然にも弘法大師様の御入定の日ともあり、大塔・奥の院では修行僧による読経が行われており、一層の荘厳さが境内を包みこんでいた。



神にませは まことるはし 那智の滝 虚子

にて正式参拝を行い佐藤千里氏子会副会長により玉串が捧げられた。

参拝後、九鬼宮司様より由緒等の説明を頂き参加者一同熱心に耳を傾けていた。

その中で特に興味深かったのが、日本サッカー協会のシンボルマークの黒カラスは、こ熊野本宮大社の八咫鳥であり、記紀神話では、神武天皇が東征の途中、天から使わされた八咫鳥の道案内により行軍したことから勝利へ導く、ゴールへ導くとして同協会のシンボルマークとなりサッカー日本代表の必勝祈願も行われ、神前には日本代表の直筆ボール・巨大絵馬がお供えされていた。

その後、二日目の予定を順調に終え、その夜は十津川温泉に宿泊した。

三日目は、生憎の雨となるも午前中、奈良県・和歌山県・三重県三県をまたぐ熊野川の瀧峡遊覧を行った。

午後より熊野速玉大社にて正式参拝を行い城野寅夫氏子会副会長により玉串が捧げられた。

この熊野速玉大社は奈良朝末期より、仏教の影響を強く受け、熊野三山を巡拝してこそ心身の甦りが図られるという、熊野権現信仰が深く浸透したお社であり、上野宮司様より曼荼羅絵図による現世と来世(極楽浄土)についての説明を頂いた。

現在の本殿と拜殿は、昭和二十八年に再建された朱塗りの建物で、晴れ晴れとした境内の光景は、まさに「生命の甦り」を実感させられる雰囲気であった。

次に、那智の滝を見学し、その滝を見下ろす山の斜面に鎮座する熊野那智大社にて参拝、約五百段の階段を上り社殿からの滝と山と海を繋ぐ景色を見たとき「蟻の熊野詣」といわれる古人の信仰起源を強く感じた。

その後、勝浦温泉に宿泊し無事三日目の行程を終了した。

最終日も生憎の雨となったがホテル出発後、橋杭岩、また白浜泉都めぐりとして車窓より千畳敷・三段壁・内月島を眺めお昼には道成寺を参拝、昼食後、関西空港へと向い紀伊路を後にした。

関西空港より飛行機にて福岡空港へ夕刻到着し、十八時宗像大社にて解散となり第十五回氏子会研修旅行は無事終了した。

今回のこの研修旅行を通じて参加者一同、熊野地方の宗派を超えての世界遺産への地域の取り組み・連帯感の強さを改めて感じ、当社の沖ノ島の世界遺産登録への更なる意気込みを感じさせる、有意義な研修旅行となった。

最後に今回の研修旅行に際し、格別の御高配を賜りました各神社宮司様をはじめ職員各位に心から厚く御礼申し上げます。



最後に今回の研修旅行に際し、格別の御高配を賜りました各神社宮司様をはじめ職員各位に心から厚く御礼申し上げます。

あした、つばめと。
より気軽に、より満足のゆく旅へ。つばめがお連れします。

九州新幹線「つばめ」博多～鹿児島中央、最速2時間12分。30分おきに快走。

宗像市海開き

神郡宗像に夏の後楽シーズンを告げる「海開き」神事が、六月二十八日宗像観光協会(吉武邦彦会長)主催で行われた。

生憎の曇り空の下、神職三名が宗像市神湊海岸に向向。砂浜に祭壇を組み、海川山野の神饌をお供えし準備が整うと、玄海ホテル旅館組合、神湊飲食店組合、水難救助所ら、海に携わる各関係者が参列し、敬虔な祈りを捧げた。

神湊海岸での神事が終了すると神職が二手に分かれ、深浜海岸、鐘崎漁港(鐘崎)、五月松原、江口浜(江口)、勝浦海岸(神湊)など、市内の各海水浴場へ向かい清祓を行った。祭典後は、「玄海旅館」で直会が



太宰府天満宮との親善野球大会開催

宗像大社チームの完勝、昨春からの連勝を3に延ばす



梅雨の真つ最中の七月三日、春日市の春日球場で恒例の太宰府天満宮との野球の交流戦が行われ、十一対四で当大社が完勝した。

前日からの雨が残り、球場が使用出来るか微妙であったが、午後一時選手・応援団は予定通り宗像を出発。球場到着後使用許可が下り、午後三時プレイボール。

試合は、序盤から一進一退の攻防であったが、中盤以降主戦大塚がペースを掴みはじめ零封、打線も終盤に大爆発し、大差での勝利となった。毎試合、終盤までもつれ、前回、前々回も最終回に得点、あるいはサヨナラの勝利であっただけに、今回の完勝は宗

像チームの結束を深めた。これで宗像チームは昨春からの連勝を三に延ばした。

当大社では昭和四十七年に職員との親睦を目的に野球部を結成。同じく、野球部をもつ太宰府天満宮と親善試合を行ってきた。昭和五十年代に一旦中止していたようだが、平成の御世に復活、以来春は太宰府で、秋は宗像でそれぞれ開催している。

試合後は、太宰府天満宮内の「余香殿」で、同宮西高辻宮司当大社神島宮司出席の下、当大社後発隊の面々も加わり直会。親睦を深めた。

今回は、当大社から「道Tシャツ」を天満宮職員にプレゼント。太宰府が赤、当大社職員が青を着用し、直会を行った。

また、八月十七、十九日に、神戸で開催される「東西神社人野球大会」に太宰府・宗像合同チームで九州から初参戦することが決定しており、現在、週一回ペースで練習、練習試合を行っている。



▲太宰府天満宮での直会。青が当大社職員、赤が太宰府天満宮職員。



国内線の新しい搭乗スタイル SKIP



1

事前に「指定席予約決済」を
(予約・購入・座席指定)
お済ませください

9月1日から
チェックイン不要!

チェックインを
SKIP

2

空港についたら
搭乗手続きなしで
保安検査場へ

3

出発時刻の
10分前までに
搭乗ゲートへ

+

搭乗

+

2006年9月1日よりスタート! 対象空港などくわしくは www.ana.co.jp まで

昭和50年代の海開きの様子



玉串拝礼される吉武会長

催され、宗像の観光事業の将来についてなどの話題に花が咲いた。宗像の海は海水の透明度が高く、国立公園の指定を受ける程の浜、そして『釣りアジ玄ちゃん』『玄海とらふく』『玄海活イカ』などブランド魚に代表される海の幸を有し、県内でも人気の海水浴場である。吉武会長は「観光客の皆様には、海では無理をせずルールを守り、皆が楽しく海の恵を享受していただければ」と話されていた。

RKB毎日放送

「黄金ディッシュ」

吉村作治 福岡・玄界灘の海の幸を喰らう!



番組名 『黄金ディッシュ』

～吉村作治 福岡・玄界灘の海の幸を喰らう!～

放送日時 8月5日 午前9:25～9:55 制作著作 RKB毎日放送

当大社宮司も番組審議員を務めるRKB毎日放送で、宗像を特集した番組の放送があります。

沖ノ島を中心とした宗像地域を世界遺産にという取組みを応援いただいている吉村作治先生ですが、実は玄界の魚が大好物。そんな吉村先生が宗像を訪れ、新鮮な海の幸を味わうという内容です。

前氏子青年会長の吉武邦彦氏が店主の「魚屋」、神湊の魚市「イカ太郎」等が映ります。九州・山口の皆様、御覧下さい。

「吉村作治の早大エジプト発掘40年展」のお知らせ



尚、当大社授与所でもチケット1,400円を1,000円でお頒ちしております。ご希望の方は、お申し出下さい。

「吉村作治の早大エジプト発掘40年展」
会場：福岡市博物館 Tel 092-845-5011
※詳細は福岡市博物館にお問い合わせ下さい。

早稲田大学古代エジプト調査隊が今年で40周年を迎え『吉村作治の早大エジプト発掘40年展』が、7月14日から福岡市博物館を皮切りに全国で開催されます。

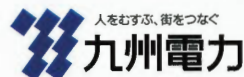
吉村先生は「今後、これらはエジプトの各博物館に分散し収蔵され、海外に出ることはないでしょう」とおっしゃられており、エジプトに関するこれだけの展示内容は、今回が初めて最後です。この機会をお見逃し無く。



スクラムを 組ませて ください。

エネルギーに関する ベスト・パートナーを目指します。

お客さまの声に、誠心誠意、耳を傾けること。エネルギーに関する様々なご要望をワンストップで受け止め、グループの総合力を駆使して対応させていただくこと。それが九州電力のエネルギー・ソリューション。私たちは、お客さまとガッチリとスクラムを組み、エネルギーという幅広いフィールドの中で、エネルギーの効率的利用やお客さま設備に関するアドバイスなどに柔軟に対応できるベスト・パートナーを目指します。



<http://www.kyuden.co.jp/solution/index.html>

第十九回 式内社顕彰会九州支部巡拝旅行

日向神話を訪ねての旅

六月二十一日、二十二日、当大社が事務局を務める式内社顕彰会九州支部主催で、「日向神話を訪ねての旅」と題した巡拝旅行が、上杉式内社顕彰会副理事長、高橋霧島神宮宮司、川上鹿兒島神宮宮司、大神諏訪神社宮司、他十六名参加の下開催され、鹿兒島・宮崎の由緒ある古社、史跡を歴訪した。

【一日目】

JR鹿兒島中央駅に集合。大型バスに乗り込み最初の参拝先である照國神社へ向かった。御祭神は薩摩藩主第二十八代島津斉彬公で、幕末の内外多事多難の時、国家の前途を洞察して対処し、尊皇尽忠を基として学問を



奨励し、西洋文明の吸収に努めて集成館事業という大きな近代化産業を推進し、近代日本の基礎を築いた名君として崇敬されている。正式参拝後、照國文庫資料館を見学した。

次に、大隈國一の宮鹿兒島神宮に参拝。川上宮司様の出迎えを受け、正式参拝を行う。鹿兒島神宮の創祀は遠く神代に属し、御祭神は海幸山幸の神話で有名な彦德穗出見尊(山幸彦)境内地は祭神の皇居高千穂宮跡。大隈、薩摩、日向国随一の大神であり、古来より朝野の崇敬が特に篤い神社である。一日目は霧島に宿泊。

【二日目】

霧島神宮を正式参拝。御祭神は天饒石国(あまのたに)饒石天津日高彦火瓊瓊杵尊。創祀は欽明天皇の御世、高千穂峯のほど近く脊門丘に社殿が建立されたが、その後たびたび噴火炎上し、今から五百年前現在の社地へ御鎮座された。本殿・拜殿・勅使殿と共に国の重要文化財に指定されている。参拝後、去年の三月に落成した神楽殿を見学させていただいた。

次に、宮内庁指定、日向神代三代陵墓の一つ、高屋山上陵(たかやまのみのみづののみす)を参拝する。鹿兒島空港から二キロほどの距離にある杉木立に囲まれた御在所で天津日高彦火火出見尊を御祀りしている。当日は、陵墓守長岩元真一氏に丁寧な説明を受けた。岩元家は、代々陵墓を管理しており、岩元氏は五代目との事であった。宮崎県に入り、狭野神社へと向かう。孝昭天皇の御代、神武天皇御降臨の地に社殿が創建されたのが、狭野神社の創祀である。御祭神は神武天皇。幼名を

狭野命と呼ばれていた事が、狭野神社の名の由来である。

霧島六所権現の一つとして、古より事始めの神、開運、交通安全の守護神として篤い崇敬を受けている。国の天然記念物に指定されている狭野杉の大木に囲まれた社の社である。二泊目は宮崎市内に宿泊した。

【三日目】

伊邪那岐尊の禊祓の霊跡の地と伝えられている江田神社を正式参拝。参拝後、現在は宮崎県が管理する阿波岐原森林公園にある「みそぎ池」を見学する。

次に、潮神社とも呼ばれる鹿野田神社を参拝する。平安時代の女流歌人和泉式部が、病の治療の為に、神社の泉で湯治をしたと伝えられており、境内にある井戸は「潮の井」と呼ばれ、ナトリウム塩化物を多く含む塩辛い水が湧き出している。海から十五キロも離れているにもかかわらず、潮の満ち干に合わせて、水面が上下するという。実際に飲んで見たが本当に海水のようだった。最後に西都市の西部原古墳群を見学し、宮崎空港で解散した。この度の巡拝会においてお世話になりました各神社、施設の皆様方に紙面を借りて、厚く御礼申し上げます。



ご家族の介護は西鉄で!

西鉄の「介護付有料老人ホーム」

《サンカルナ博多の森 ケアステージ》介護が必要な方のための“お住まい”

こんなご苦労や不安をお持ちの方は、ぜひ西鉄にご相談下さい

家事と介護の両立が難しい

介護疲れて体調を崩した

認知症で徘徊が始まった

病院での治療は終わったが、自宅で介護できるか不安

お問い合わせ、ご相談

0120-535-767

事業主体
 西日本鉄道株式会社
 住宅事業本部シニアマンション課
 〒810-8570 福岡市中央区天神一丁目11番17号
 (社)全国有料老人ホーム協会会員

ホームページアドレス

http://www.nishitetsu.ne.jp/suncarna

運営主体
 西鉄ケアサービス株式会社

「サンカルナ」で検索してください。 ホームページにて紹介ムービーをご覧いただけます

(続)

浜の寄物

206



いしいただし

五月二十七日の沖ノ島参拝に参加した。前日三時頃の船で大島に渡った。雨と風で船は大揺れだった。六時の中津宮宵宮祭後、渡航の諸注意、乗船割等があった。「朝が早く、飲食はそこそこに、早めに寝て体調を整えて下さい。明日は海に餌をまかないように、洗面器で唄われぬように」と説明の神職。

「明日沖ノ島に渡るかは半々でしょうね」神島宮司も厳しい表情だった。今回福岡市埋文センター所長だった塩屋勝利氏、志岐郷土館館長市山等氏が一緒である。志岐海人の二人は「船で酔った



ことがない」酒もビールもガンガン飲んでも一向に平気であった。

二十七日四時半起床、食事をして六時出港、風・雨はおさまっていない。多分「だめでしょ」なと「参拝中止と思っ

ていたら、なんと「決行します」人員点呼、あわてて酔止めのドリンクを一気に飲む。船は大揺れであったが、薬のせいか「餌まき」まではなかった。追い風で思ったより早く着いた。襦を

の度にどよめき
が起こった。ど
の顔も蒼白、ま
た一人よたよたと
ビール袋を持って出て行った。飲んだ薬
もきかない。雨、飛沫を受け「餌まきだ」
とうめいていた。今回のような体験はは
じめてであった。ただ事故もなく無事大
島に着いた。



さてその沖ノ島を世界遺産にしようとする動きが活発になってきた。九月三

〇日(土)には、比較文明学会が「沖ノ島から文明を考える」のシンポジウムを行う。会場は宗像大社前のアクシス玄海、一三時一〇分から早大の吉村作治教授の基調講演、西谷正九州大学名誉教授ほか七名のパネリストによつて「沖ノ島を基点にしながら、世界的な視野で、この地域の文明の普遍的と独自性を浮き彫りにし、その人類史上における意義を考えてみる」というものである。「この議論を通じて沖ノ島と周辺の玄界灘沿岸部がユネスコの世界遺産としての価値を有するか否かについてもふれてみたい」学会員のみならず一般市民の参加もできる。多くの参加者によつて沖ノ島の文明と世界遺産を考えてもらいたい。



情報、環境、ものをつなぎトータルにデザインします。

Think And Produce

株式会社ジーエータップ

本社 / 〒812-0024

福岡市博多区綱場町2-2 福岡第一ビル1F

Tel 092-291-8801 Fax 092-291-8805

東京事務所 / 〒102-0073

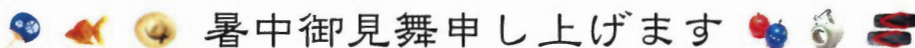
東京都千代田区九段北1-13-1 九段中坂ビル2F

Tel 03-3221-1735 Fax 03-3221-1736

暑中お見舞い申し上げます。



暑中御見舞申し上げます



第五四〇回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メ切

評 宗像市 田久 巻 桔梗
玉砂利に座りて爐祈りを脱ぎたる靴をかたはらに置き
丁寧に見て詠われているが、四句を「ズツクの」としたらどうだ
ろうか。

評 うきは市 浮羽町 向 則正
媽祖堂より胡弓の音が近よれば修学々生の体験なりき
長崎さるく博の注があるが、いい処をとらえている。
二句は「きこゆる胡弓」がいい。

評 福津市 若木台 野間 精一
天を指し大きく白き花開くタイサンボクは見れど飽かざり
泰山木天にひらきて雨を受く 山口誓子。を思い出させる一首。
結句がやや常套的なのが惜しい。

評 宗像市 鐘崎 安永 久子
今一度言葉かけたし畑のもの吾にこたえて伸びゆくものに
緊急入院した作者の、じれたき、畑の物に対する愛情の深さが率
直に出ている。

評 福津市 在自 増田 武光
捨てられし農道脇の早苗東雨にふたたび息づき青む
植物のたくましい生命力に対する驚きが「息づき青む」であり、
一つの発見である。

評 福津市 星ヶ丘 佐々木 和彦
ほととぎす声は透りて日の出づる前の杜にて啼き続けたり
開発によりめつたに聞かれなくなった時鳥の声を聞く作者が羨
ましい。「前の杜」は「前を杜」はどうか。

評 宗像市 大井 木原 ふさ子
小肥りの住職撞きし鐘の音の腹の芯まで余韻のひびく
作者の想像以上に力強い鐘の音であったのだろう。小肥りの「が面白
い。ただ二句は「住職の撞く結句の「余韻の」は「は」も考えられる。

評 宗像市 東旭ヶ丘 天野 玲子
紫陽花の花弁のなかの一しづく花の涙かこぼれ落ちたり
繊細な神経のはたらいた歌。下句は「こぼれ落しは花の涙か」と
順直に表現したい。

評 福岡市 南区 井田 有久衣
野苺の赤き実二つ雑草の茂れるなかに身をかすがに
野苺の可憐が出てくる。

評 宗像市 東郷 山口 節子
野いばらを手折りをれば刺さるお前ばかりが美人ぢやないぞ
下句のフレーズの大胆さがいい。異色なうた。

評 宗像市 日の里 大和 美由紀
水無月の田植えし頃を思い出す鉄砲百合の庭に開きて
鉄砲百合からの連想はいいが、初句の水無月は、田植との季の重
なりから一考を要す処。

評 宗像市 田野 森 甲子
今は使ふことなき棕櫚の高木より黄の花殻しきりに零す
例えば「今は柱に使ふことなき」など、用途が明確に出るといい
のだが。

評 宗像市 池田 森 龍子
雨続き若葉の色の深まりて朝の日に照る土壁青し
雨季の若葉のうつくしさを詠っているが、多い名詞を減らすた
めに四句は「日の照るときに」の表現もあろう。

評 福津市 光陽台 香月 照子
弱りゆく心むちうつ降る雨に庭の紫陽花強く色増す
気持は同感出来る。ただ二句切れなので結句は「色増し」と連用
形止めがいい。

評 福津市 中央 池浦 千鶴子
米粒のやうな花咲くねずみもち掃くたび思ふ飢えたる頃を
戦後の食料不足の時にねずみもちの実を食べたのだろうか、私
には結句に理解が及ばない。

評 宗像市 大島 杉田 禮子
前は風ぎ裏は大時化なる日和島では婆さん風と呼びをり
糟東風 糟東風ありゆたかなる木の春魚の春を吹く風 など小島ゆかりさんは地方の
気象用語を使つてさかんに詠つているが婆さん風など大島独自の言葉で汎山詠つて欲しい。

評 宗像市 光ヶ丘 清水 亜矢子
早もして蟬の鳴くこえ聞こえる季節を先取り梅雨を知らせて
原作の初句は「聞こえる」三句は「天然の」だったのを、順直な表現に直したが、
早々と鳴く蟬声に季の移りを感じる感性は素晴らしい。次作が期待される。

評 八幡西区 竹内 結子
文化財にハトが巣づくりこわされて行き場なくなりクルクルクル
平和のシンボルとし子供達に愛される反面、鳩公害も問題である。相反する二面性を
持つ鳩に対する気持が下句に巧みに表われている。グルグルクルクルが特がいい。

第五二五回 俳句作品集

宗像市光岡 白土 凌一
花を見て行つて見たいな霧島に
福津市在自 増田 武光
老人は真水なりけり夏立ちぬ
宗像市日の里 花田いつ枝
畏みて禰宜につきゆく大茅輪

宗像市自由ヶ丘 井上 嘉治
風鈴の音色悲しき一人酒
宗像市東郷 宗風俳句会吉武 湧泉
糸柳風に乱るる唐津城
吉田 杏子
読み返す古き手紙や春は逝く
三浦美千代
春雷やよる年波をいかにせむ
田中 雨葉

一湾の潮引ききまつて若葉風
木原 房子
足音に啼きて池へと飛ぶ蛙

編集後記 お休みをいた
だいて、郷里
に帰省してきました。毎日毎日雨で、
実家の隣市では土石流や鉄砲水が
発生し、多くの方がお亡くなりな
りました▼「日本の屋根」と呼ばれる
高い山に囲まれ、飛行機はよく揺れ
ます。しかし帰る際、電車は運休、高
速道路は通行止めになる中で、使用
する飛行機(フコヘラ機)は一時間程
上空で旋回した後、無事着陸、すぐ
乗り込み帰省出来ました▼何もして
ないのに、なぜか疲れた帰省でした
が、確実にリフレッシュすることは
出来ました。また頑張りたいと思
います。(M.O)

宗像大社事務所 発行所 宗像大社

〒811-3505 福岡県宗像市田島
電話 0940-62-1311(代)
発行人 伊藤佳和
編集人 大塚宗延
制作 ゼネラルアサヒ
印刷 ゼネラルアサヒ

定価1年送料共1,000円